城

六年

画数 9
筆順 土 坂 城
オン ジョウ
クン しろ

成り立ち

〝土〟と〝戉（昔の武器）〟と、「物を打ちつけて、〝安定〟させる」意味を表した〝丁（3年372）〟とを組み合わせて作った字です。

「〝土〟と〝武器〟とで〝守る〟」という意味を表した字で、「〝土〟を築いて造った〝お城〟」を表したものです。

昔は、大陸では、外敵の侵略を受けるおそれがありましたので、町の周囲に土を高く積み上げて町を守りました。これを〝城壁〟と言い、単に〝城〟と言いました。

使い方

▽ヨーロッパや中国などでは、町を守るために、周囲に城壁を築きました。今ではもう、そういう城壁は必要がなくなりましたが、中にはまだ城壁が残っている都市もあります。

▽日本の姫路城は、白鷺城とも呼ばれ、その美しさで有名な名城です。戦国時代には、安土城をはじめとして数々の名城が築かれましたが、惜しいことに今では、おおかたの城がなくなってしまいました。

熟語例

▽名城（すぐれた城）
▽古城（古い城）
▽王城（王の住む城。また、その城のある所である、都のことを言います。）
▽築城（城を築くこと。）
▽落城（城が落ちること。敵に城を攻め落とされること。）
▽根城（根拠地とする城。「出城」に対する言葉です。また、そこから、活動の根拠地となる場所。「友だちの家を根城にして、東京見物をした」など）

蒸

六年

画数 13
筆順 艹 茎 蒸
オン ジョウ
クン む＝す＝らす＝れる

成り立ち

水の入った容器（丞）を、下から〝火（灬）〟で熱し、水が〝蒸気〟になる形を表した〝烝（丞が蒸気になる形を表している）〟と、〝艹〟とを組み合わせて作った字です。「草が〝蒸す（生える）〟」ことを表した字です。

しかし、今では、〝烝（蒸気を立てること）〟の意味に使われていて、〝烝〟の字は使いません。今は、烝気を〝蒸気〟と書き、「烝気を立てる」ことを〝蒸す〟とか〝蒸らす〟とかと言います。

〔「草が蒸す」の〝むす〟が〝蒸〟で、〝烝〟は〝蒸気〟の〝烝〟なのである。〝烝〟の字が常用漢字に無いためとは言え、〝蒸気〟とはいかがなものか。〕

使い方

▽「君が代は、千代に八千代にさざれ石の巌となりて苔の蒸すまで」。この日本の国歌ほど美しい国歌は他にないと思います。

▽ぼくの家では、毎月一日に赤飯を蒸して食べます。「今月も家族そろって元気に暮らせますように」と、お祈りしていただくのです。

熟語例

▽蒸し器（ご飯蒸しやせいろうなど、食べ物を蒸すのに使う器具）
▽蒸し返し（一度蒸した物をもう一度蒸し直すこと。「一度済んだことをまた問題にする」ことにも使います。）
▽蒸気（液体が熱せられて気体に変わったもの。水の場合は〝水蒸気〟と言いますが、単に〝蒸気〟とも言います。）
▽蒸発（液体が気体に変わること。「物が無くなったり、人がその存在を不明にする」のにも使われます。）
▽蒸留（液体の不純物を取り除くため、熱して蒸気にし、これを冷やして液体にもどすこと。もとは、留は〝溜〔ためる〕〟でした。）